

中世哲学関係文献目録

(原則として 2011 年 4 月より 2014 年 3 月まで)

中世哲学会編／ 2015 年 3 月 31 日

単行本

- 神門 しのぶ, アウグスティヌスの教育の概念 (教友社) 13.11
- 菊地 智, エックハルトの「神人合一」思想におけるキリスト論的問題 (早稲田大学出版部) 11.3
- 小林 剛, アリストテレス知性論の系譜 —— ギリシア・ローマ、イスラーム世界から西欧へ (粹出版社) 14.3
- 佐々木 徹, 聖アンセルムス神学の教義学的研究 (サンパウロ) 13.5
- 上智大学中世思想研究所 [編], 中世における信仰と知 (知泉書館) 13.3
- SUTO Taki, *Boethius on Mind, Grammar and Logic: A Study of Boethius' Commentaries on Peri Hermeneias* (E.J. Brill) 11.11
- 谷 隆一郎, アウグスティヌスと東方教父 —— キリスト教思想の源流に学ぶ —— (九州大学出版会) 11.4
- 津田 謙治, マルキオン思想の多元論的構造 —— プトレマイオスおよびヌメニオスの思想との比較において (一麦出版社) 13.2
- 久松 英二, ギリシア正教 東方の智 (講談社選書メチエ 522) 12.2
- 宮本 久雄, ヘブライ的脱在論 —— アウシュヴィッツから他者との共生へ (東京大学出版会) 11.4
- 宮本 久雄, 他者の風来 —— ルーアッハ・プネウマ・気をめぐる思索 (日本キリスト教団出版局) 12.3
- 宮本 久雄, 出会いの他者性 —— プロメテウスの火 (暴力) から愛智の炎へ (知泉書館) 14.3

翻訳

- アタナシオス, イエス・キリストの受難および裁きの恐怖について, 久松 英二 [訳]
(教文館) 12.1
- アンソニー・メレディス, カップパドキア教父 —— キリスト教とヘレニズムの遺産, 津
田 謙治 [訳] (新教出版社) 11.4
- ドゥンス・スコトゥス, ドゥンス・スコトゥス『命題集註解』第三卷第三区分第一問
(マリアの無原罪の宿りについて), 阿部 善彦・福田 淑子・村上 寛 [訳] (ロ
ザリウム・ミュスティウム: 女性神秘思想研究1・女性神秘思想研究会) 13.7
- トマス・アクィナス, 感覚的能力は分離した魂の内に存続するか —— トマス・アクィ
ナス『定期討論集 魂について』第19問題 解説、翻訳と註, 井上 淳 [訳] (南
山神学 35) 12.3
- トマス・アクィナス, 「分離した魂は個々のものを認識するか」トマス・アクィナス『定
期討論集 魂について』第20問題 翻訳と註, 井上 淳 [訳] (南山神学 36) 13.3
- トマス・アクィナス, 分離した魂は物的な火によって罰を受けることができるか ——
トマス・アクィナス『定期討論集 魂について』第21問題 解説, 翻訳と註, 井
上 淳 [訳] (南山神学 37) 13.3
- トマス・アクィナス, 定期討論集 霊的被造物について 第一項, 石田隆太 [訳] (宗教
学・比較思想学論集 15・筑波大学) 14.3
- トマス・アクィナス, 定期討論集 霊的被造物について 第二項, 石田隆太 [訳] (筑波
哲学 22) 14.3
- フィロカリア, 第2巻, 宮本 久雄・高橋 英海・中西 恭子・高橋 雅人・袴田 玲
[訳] (新世社) 13.6
- フィロカリア, 第6巻, 土橋 茂樹・坂田 奈々絵・桑原 直己 [訳] (新世社) 13.5
- フィロカリア, 第8巻, 宮本 久雄・高橋 雅人・北垣 創・大森 正樹 [訳] (新世
社) 12.1
- A・S・マクグレイド [編著], 中世の哲学 (ケンブリッジ・コンパニオン), 川添信介
[監訳] (京都大学学術出版会) 12.11
- ローマ教皇庁, 信徒使徒職に関する教令 (第二バチカン公会議公文書改訂公式訳), 久
松 英二 [訳] (カトリック中央協議会) 13.10
- フライベルクのディートリッヒ, フライベルクのディートリッヒ『知性と可知的なもの
について』(第一部), 阿部 善彦 [訳] (国士館哲学 18・国士館大学哲学会) 14.3

偽エックハルト, 『マイスター・エックハルトの靈的姉妹カトライ』—— 研究と試訳,
阿部 善彦 [訳] (エクフラシス別冊 1・早稲田大学中世・ルネサンス研究所) 14.3

研究論文

阿部 善彦, クザーヌスとドイツ神秘思想をむすぶ—— 14-15 世紀のフランドルの靈性を手がかりとした試論—— (ロザリウム・ミュスティクム: 女性神秘思想研究 1・女性神秘思想研究会) 11.7

阿部 善彦, エックハルトの『教導講話』—— その成立背景となる修道靈性の伝統について (日本カトリック神学会誌 22・日本カトリック神学会) 11.8

阿部 善彦, 『ゾイゼの生涯』における愛と記憶—— 共生と和解の地平の物語り論的展望 (パトリスティカ 15・教父研究会) 11.12

阿部 善彦, エックハルトの「ドイツ語説教八六」における「マリア」像—— タウラー、ゾイゼにつづくドイツ神秘思想の基底にあるものの解明に向けて—— (宗教研究 370・日本宗教学会) 11.12

阿部 善彦, エックハルトの『教導講話』におけるキリスト教的修行論—— 《模範》に基づく宗教的生の完成と《個人》の多様性の緊張関係—— (研究論叢 44・星美学園短期大学) 12.3

阿部 善彦, ハインリッヒ・ゾイゼにおける「マリア」—— 中世後期から近世に至る宗教文芸、民衆靈性の展開および神秘思想と宗教芸術の相互関係性について—— (星美学園短期大学日伊総合研究所所報 8・星美学園短期大学) 12.3

阿部 善彦, エックハルトの初期ドイツ語著作『教導講話』における「放念」(gelâzenheit) (上智短期大学紀要 32・上智短期大学) 12.3

阿部 善彦, エックハルトと擬ディオニシオス・アレオパギテースの『神秘神学』—— 「闇」の宗教思想史的伝統—— (エクフラシス 2・早稲田大学中世・ルネサンス研究所) 12.3

阿部 善彦, ドイツ神秘思想と近世キリスト教—— 「エックハルト像」の変遷をたどって—— (日本カトリック神学会誌 23・日本カトリック神学会) 12.8

ABE Yoshihiko, The Meaning of Death in German Mysticism — Reading Mystical Visions of Suso — (*Sophia Philosophica* 25・Sophia University, Graduate School of Philosophy) 13.2

阿部 善彦, ゾイゼにおけるエックハルト受容—— 『ゾイゼの生涯』第 6 章における

- 「神化」、「放念」に関する教説を手がかりとして —— (フィロソフィア 100・早大哲学会) 13.3
- 阿部 善彦, 西谷啓治の『神と絶対無』におけるエックハルト研究について —— 問題点の批判的検討の試み —— (思想史研究 17・東京大学大学院総合文化研究科・日本思想史思想論研究会) 13.4
- 阿部 善彦, エックハルト研究におけるテキスト問題について —— Pseudo-Eckhartian texts (偽エックハルト文書) の研究意義 (日本カトリック神学会誌 24・日本カトリック神学会) 13.8
- 阿部 善彦, エックハルトの思想形成と偽ディオニシオス・アレオパギテースの『神秘神学』《魂における神の誕生》の思想と《闇》の神秘思想の邂逅 (中世思想研究 55・中世哲学会) 13.9
- ABE Yoshihiko, The Symbol of Mountain in the Mystical Thought of Nicolaus Cusanus — Transfiguration in Mount Tabor in Sermo 176 — (*Sophia Philosophica* 26・Sophia University, Graduate School of Philosophy) 14.2
- 阿部 善彦, キリスト教修道霊性伝統と創造的リフレイン —— 『教導講話』を誕生させた「コラチオ」をめぐる考察 —— (研究論叢 46・星美学園短期大学) 14.3
- 阿部 善彦, 西欧キリスト教思想における「偶然」と「必然」 —— 「告白」的文学における「回心」、「出会い」の物語り性の視点から —— (国士館哲学 18・国士館大学哲学会) 14.3
- 荒井 洋一, アウグスティヌスの『告白録』における時間論の根源的な意味 (パトリスティカ 17・教父研究会) 14.3
- ISHIDA Yuri, The Concept of the Soul (Nafs) in the Early Sufism according to al-Qushayrī's al-Risāla al-Qushayrīya and al-Hujwīrī's Kashf al-mahjūb (*Journal of Intercultural and Religious Studies* 2・Çanakkale Theology Association) 12.6
- 飯塚 知敬, 神におけるペルソナの数についての一考察 —— トマス・アクィナス『能力論』q.9, a.5 —— (長崎大学教育学部社会科学論叢 75・長崎大学) 13.3
- 石田 隆太, トマス・アクィナスにおける「個」としての「人間」:「魂」の「個体化」を中心にして (筑波哲学 22・筑波大学哲学研究会) 14.3
- 上枝 美典, 中世哲学と現代 (応用哲学を学ぶ人のために・世界思想社) 11.5
- 上枝 美典, 第5章 盛期スコラとトマス (西洋哲学史Ⅱ 「知」の変貌・「信」の階段・講談社) 11.12
- 上枝 美典, II-2 トマスの言語哲学 (イスラーム哲学とキリスト教中世Ⅱ 実践哲学・岩波書店) 12.3
- 上枝 美典, 現実性としてのエッセ再考 (アルケー: 関西哲学会年報 21・関西哲学会) 13.6
- 上枝 美典, 〈シンポジウム提題〉トマスの神はエッセのアイデアか (中世思想研究 55・

- 中世哲学会) 13.9
- 大森 正樹, 神の場とエネルギー —— パラマス問題解決の試み (南山神学 35・南山大学) 12.3
- 大森 正樹, 観想の文法書としての『フィロカリア』 (パトリスティカ 16・教父研究会) 12.12
- 大森 正樹, ヘシカズム論争とは何であったのか —— バルラアム『第一書簡 (1-29)』を通して —— (エイコーン 44・東方キリスト教学会) 14.3
- 片山 寛, ライマールスの生涯とそのキリスト教批判 (西南学院大学神学論集 69・西南学院大学) 12.3
- 片山 寛, 「中世の秋」を生きる教会の希望 (西南学院大学神学論集 70・西南学院大学) 13.3
- 片山 寛, 神学の学びの基礎 —— トマス・アクィナスにおける神学と自然学 —— (西南学院大学神学論集 71・西南学院大学) 14.3
- 加藤 磨珠枝, 古代ローマから中世キリスト教美術にみる自然の転化 (自然の知覚: 風景の構築。グローバル・パースペクティヴ・三元社) 14.3
- 神門 しのぶ, アウグスティヌスの教育論からみた自由学芸の「自由」について (関東教育学会紀要 39・関東教育学会) 12.10
- 河野 雄一, 中世の継承者としてのエラスムス: 1520 年代の論争を通して (西洋中世研究 4・西洋中世学会) 12.12
- 河野 雄一, エラスムスにおける「寛恕」と限界 —— 時間的猶予における改善可能性 —— (法學政治學論究 100・慶應義塾大学大学院法学研究科内『法学政治学論究』刊行会) 14.3
- 神田 愛子, マイモニデスにおける神への道程 —— 『迷える者の道案内』III: 51 より —— (中世思想研究 53・中世哲学会) 11.10
- 神田 愛子, マイモニデスの遍歴 —— その著作に与えた影響 (一神教世界 5・同志社大学一神教学際研究センター) 14.3
- KIKUCHI Satoshi, Repeating Incarnation: Meister Eckhart and the Problem of Christ's Historicity (*Religious Experience & Tradition: International Interdisciplinary Scientific Conference*・Vytautas Magnus University) 11.5
- KIKUCHI Satoshi, Jan van Ruusbroec and the "Birth of God" Doctrine (フィロソフィア 99・早稲田大学哲学会) 12.3
- KIKUCHI Satoshi, Ruusbroec's Concept of gemeen (Common) Reconsidered (*Ons Geestelijk Erf*・Peeters) 12.6
- KIKUCHI Satoshi, The Problem of the Self and the Divine in the Mystical Testimonies (*Mystical Anthropology: Cross-religious Perspectives: Interdisciplinary Reflections on the Arnhem Mystical Sermons and Sri Aurobindo*・Peeters) 12.7

- KIKUCHI Satoshi, Meister Eckhart: een innerlijke weg naar de zaligheid (*Dieper dan het diepste zelf*・Averbode) 12.8
- KIKUCHI Satoshi, Jan van Leeuwen's Criticism of Meister Eckhart: An Aspect of the Impact from the Papal Bull *In agro dominico* in Fourteenth-century Brabant (*Medieval Mystical Theology*・Equinox) 12.12
- 小林 剛, アルベルトゥス・マグヌスの能動知性論——『人間論』に即して——(哲学論集 42・上智哲学会) 13.10
- 小林 剛, アルベルトゥス・マグヌスの知性論史解釈——『靈魂論』に即して——(中世哲学研究 32・京大中世哲学研究会) 13.11
- 小林 剛, アルベルトゥス・マグヌスの可能知性論——『靈魂論』に即して——(中央大学文学部紀要—哲学 56・中央大学文学部) 14.1
- 小村 優太, イブン・シーナーの認識論(イスラーム哲学とキリスト教中世Ⅰ 理論哲学・岩波書店) 11.11
- 小村 優太, マイモニデス『迷える者たちの導き』預言者論における哲学者批判(エイコーン 42・東方キリスト教学会) 12.3
- 小村 優太, イスラームにおける障害の表現(共生のための障害の哲学——身体・語り・共同性をめぐって——・東京大学大学院総合文化研究科・教養学部附属「共生のための国際哲学研究センター」(UTCP) 上廣共生哲学寄付研究部門) 13.10
- 堺 正憲, アウグスティヌスにおける anima (魂) について——一人の人間としての立場からの一考察——(医学と福音・日本キリスト者医科連盟) 11.4
- 佐々木 徹, 聖アンセルムス研究の視界(序~III)(言語文化研究所紀要 17・茨城キリスト教大学言語文化研究所) 11.7
- 佐々木 徹, 聖アンセルムス研究の視界(IV, 結び)(言語文化研究所紀要 18・茨城キリスト教大学言語文化研究所) 12.6
- 佐々木 徹, 聖トマス・アキナスの『神学大全』と三位一体論(茨城キリスト教大学紀要 46・茨城キリスト教大学) 12.12
- 佐々木 亘, 人間の連帯性——トマス・アキナスにおける自然本性の理解をめぐって——(経済社会学会年報 33・経済社会学会) 11.9
- 佐々木 亘, 究極目的への運動——トマス・アキナスにおけるペルソナの可能性——(鹿児島純心女子短期大学研究紀要 42・鹿児島純心女子短期大学) 12.1
- 佐々木 亘, 人間的行為における能動と受動——トマス・アキナスにおける人間的行為の可能性——(鹿児島純心女子短期大学研究紀要 42・鹿児島純心女子短期大学) 12.1
- 佐々木 亘, “imago” としての “dominus” ——トマス・アキナスにおける “imago” の表現——(鹿児島純心女子短期大学研究紀要 43・鹿児島純心女子短期大学) 13.1

- 佐々木 亘, “imago” と “similitudo” —— トマス・アクィナスにおける “imago” の完全性 —— (鹿児島純心女子短期大学研究紀要 43・鹿児島純心女子短期大学) 13.1
- 佐藤 直子, クザーヌスとプロクロス —— 「絶対的同一者」の概念を中心に (新プラトン主義研究 11・新プラトン主義協会) 12.3
- 佐藤 直子, クザーヌスにおける信仰と知 —— 神秘体験における「私」の成立 (中世における信仰と知・知泉書館) 13.3
- 佐藤 直子, 「上智大学中世思想研究所」の歩みと使命 (西洋中世研究 5・西洋中世学会) 13.12
- 芝元 航平, 宗教間対話の思想としてのトマス・アクィナスの信仰理解 (宗教研究 371・日本宗教学会) 12.3
- 芝元 航平, トマス・アクィナスにおける創造の働きの固有性 —— ペトルス・ロンバルドゥスの説をめぐる議論の発展史的考察 (中世思想研究 54・中世哲学会) 12.9
- 周藤 多紀, 二種類の嘘 —— アウグスティヌスによる嘘の定義 (アルケー: 関西哲学会年報 19・関西哲学会) 11.6
- 周藤 多紀, ボエティウスのプラトニズム —— アリストテレス注解の視点から (中世思想研究 54・中世哲学会) 12.9
- 周藤 多紀, ウスター倫理学注解とその背景 —— 13 世紀西欧の『ニコマコス倫理学』注解書 —— (山口大学哲学研究 20・山口大学哲学研究会) 13.3
- 周藤 多紀, 『ウスター倫理学注解』における幸福概念 (西日本哲学会年報 21・西日本哲学会) 13.10
- 谷 隆一郎, 神人的エネルゲイアの経験 —— 意志的聴従のアナロギアに即して —— (パトリスティカ 17・教父研究会) 14.3
- 谷 隆一郎, 神への関与のアナロギア —— 擬ディオニュシオスから証聖者マクシモスへ —— (中世における信仰と知・知泉書館) 13.3
- 谷 隆一郎, エネルゲイア・ Pneuma の現在 —— 東方・ギリシア教父におけるエヒエロギアの展開 —— (共生学 7・上智大学共生学研究会) 13.2
- 谷口 茂, 説明と了解 —— 科学と神学 —— (日本カトリック神学会誌 24・日本カトリック神学会) 13.8
- TSUCHIHASHI Shigeki, *Apatheia and Metriopatheia* in Basil of Caesarea's Consolatory Letters (*Patristica, Supplementary 3*・Japanese Society for Patristic Studies) 11.6
- 土橋 茂樹, 教父哲学 (西洋哲学史 II 「知」の変貌・「信」の階梯・講談社) 11.12
- TSUCHIHASHI Shigeki, Construction of a City in Speech and Purification of the City (中央大学文学部紀要—哲学 54・中央大学文学部) 12.3
- 土橋 茂樹, 抄録者シメオンはマカリオス文書の何を切り捨て、何を残したのか —— 『フィロカリア』所収の抄録版『五十の講話』をめぐって —— (エイコーン 42・東方キリスト教学会) 12.3

- 土橋 茂樹, リスクを分かち合う倫理 (白門 761・中央大学通信教育部) 12.7
- 土橋 茂樹, カップドキア教父における信仰と知の問題 (中世における信仰と知・知泉書館) 13.3
- 土橋 茂樹, 古代末期の東方地中海世界における救貧活動と愛 (白門 773・中央大学通信教育部) 13.8
- 筒井 明子, 「哲学の慰め」における「存在」と「善」への一視点——「神への回帰」(哲学論文集 48・九州大学哲学会) 12.9
- 永嶋 哲也, 尊厳の変容——卓越、価値そして自尊へ (人間と医療 1・九州医学哲学・倫理学会) 11.8
- 永嶋 哲也, 恋愛抒情詩の伝統における愛の神聖性とキリスト教教義——ダンテとペトラルカに見る恋愛への共感と拒絶—— (福岡歯科大学学会雑誌 39-1・福岡歯科大学学会) 13.5
- 永嶋 哲也, 中世普遍論争再訪——中世唯名論者は何が存在しないと言っているか—— (哲学論文集 49・九州大学哲学会) 13.9
- 樋笠 勝士, R. グローステストにおける「信」と「知」(中世における信仰と知・知泉書館) 13.3
- 久松 英二, 東方神秘思想 (マラナタ: 京都ノートルダム女子大学カトリック教育センター紀要 20・京都ノートルダム女子大学カトリック教育センター) 13.3
- HISAMASTU Eiji, Rudolf Ottos Rezeption in Japan (*Rudolf Otto: Theologie - Religionsphilosophie - Religionsgeschichte*・Walter De Gruyter Inc.: Berlin) 13.11
- 久松 英二, 聖書における共生思想——創造物語に見る人間と自然 (グローバル化する世界と共生——権五定先生退職記念論集・龍谷大学国際文化学部国際共生コース) 14.3
- 藤本 温, 自然法について——アキナスとストア派 (中世思想研究 53・中世哲学会) 11.10
- 藤本 温, 記憶と想起について——アキナスによる (中世哲学研究 32・京大中世哲学研究会) 13.11
- 松根 伸治, 悲しみとしての嫉妬——トマスにおける *invidia* の考察 (中世哲学研究 30・京大中世哲学研究会) 11.11
- 松根 伸治, トマスは主知主義者か——知性と意志の関係 (南山神学 36・南山大学) 13.3
- 松村 良祐, 自己愛のパラドックス——トマス・アキナスにおける自己愛と他者愛—— (倫理学年報 63・日本倫理学会) 14.3
- 宮本 久雄, キリスト教神学の誕生とその伝承——ギリシア教父から西洋スコラ神学へ—— (大学の智と共育・教文社) 11.4
- 宮本 久雄, 暴力と理性——テキスト (*textus*) の解釈をめぐって—— (哲学論集 41・

- 上智大学哲学会) 12.10
- 宮本 久雄, 根源悪からのエクソダス(脱在)——ヘブライ的脱在論(エヒエロギア)の構想——(共生学7・上智大学共生学研究会) 13.2
- 宮本 久雄, ニュッサのグレゴリオスの『雅歌講話』が抜く地平(女と男のドラマ・日本キリスト教団出版局) 13.3
- 宮本 久雄, ニュッサのグレゴリオスにおける共生の理念と実践——『モーセの生涯』と『説教集』を手がかりに——(宗教的共生の展開・教文社) 13.3
- 宮本 久雄, ニヒリズムの時代と信(信とは何か・日本キリスト教団出版局) 14.3
- 矢内 義顕, 中世思想における科学と技術(経営哲学8・経営哲学学会) 11.8
- 矢内 義顕, ヌルシアのベネディクトゥスとアルルのカエサリウス(宗教研究369・日本宗教学会) 11.9
- 矢内 義顕, カンタベリーのアンセルムス『神はなぜ人間となったか』の成立について(中世哲学研究30・京大中世哲学研究会) 11.11
- 矢内 義顕, カンタベリーのアンセルムスにおけるスピリチュアリティ(スピリチュアリティの宗教史<下巻>・LITHON) 12.1
- 矢内 義顕, カンタベリーのアンセルムスにおける理性と信仰(中世における信仰と知・知泉書館) 13.3
- YAUCHI Yoshiaki, Anselm's Ideas on "Coexistence" (*Journal of International Philosophy* 2・東洋大学国際哲学研究センター) 13.3
- 保井 亮人, トマス・アクィナス『カテナ・アウレア』の序言から「マタイ福音書」1章1節に関する註解までの翻訳(哲学論究26・同志社大学哲学会) 12.8
- 保井 亮人, トマス・アクィナス『ロマ書註解』における神の予定について(同志社哲学年報35・Societas Philosophiae Doshisha) 12.9
- 八巻 和彦, クザーヌスの神秘主義(イスラーム哲学とキリスト教中世III 神秘哲学・岩波書店) 12.1
- YAMAKI Kazuhiko, Die cusanischen Gottes-Namen (*Mitteilungen und Forschungsbeiträge der Cusanus-Gesellschaft* 33・Cusanus-Gesellschaft) 12.11
- YAMAKI Kazuhiko, Eine kleine Überlegung über wesentliche Eigentümlichkeiten für das fruchtbare Zustandekommen des pädagogischen Gesprächs — in Anlehnung an Konfuzius' „Gespräche“ (Lun-yu) (*COINCIDENTIA. Beiheft* 2・Kueser Akademie für Europäische Geistesgeschichte) 13.1
- 八巻 和彦, 近代的思考様式の限界についての一試論——「科学・技術」との関わりを中心にして——(早稲田商学438・早稲田商学同攻会) 13.12
- 八巻 和彦, 企業の「社会的責任」を考えるための哲学からの一視点(R.I.B.A. アカデミックフォーラム21・早稲田大学産業経営研究所) 14.3
- 山田 庄太郎, アウグスティヌス『告白』のキアスムス構造に於ける新プラトン主義

- (宗教学・比較思想学論集 13・筑波大学宗教学・比較思想学研究会) 12.3
山田 庄太郎, アウグスティヌス『告白』の時間論が有する諸特徴について——アリストテレス, プロティノスとの比較から——(中世思想研究 54・中世哲学会) 12.9
山田 庄太郎, アウグスティヌス『告白』の時間論に於ける過去と未来の対称性について(宗教学・比較思想学論集 14・筑波大学宗教学・比較思想学研究会) 13.3

書評

- 荒井 洋一, 谷 隆一郎 [著] 『アウグスティヌスと東方教父』九州大学出版会, 2011 (西日本哲学会年報 21・西日本哲学会) 12.10
加藤 磨珠枝, ピエトロ・ザンデル [著] 豊田 浩志他 [訳] 『バチカン サン・ピエトロ大聖堂下のネクロポリス』上智大学出版, 2011 (ソフィア 238・上智大学) 12.12
小林 剛, アラン・ド・リベラ [著] 阿部 一智 [訳] 『理性と信仰——法王庁のもうひとつの抜け穴』新評論, 2013 (図書新聞 3127・(株) 図書新聞) 13.9
小村 優太, Robert Wisnovsky, *Avicenna's Metaphysics in Context*. Cornell University Press, 2003 (中世思想研究 55・中世哲学会) 13.9
土橋 茂樹, Kevin Corrigan, *Evagrius and Gregory: Mind, Soul and Body in the Fourth Century*. Ashgate, 2009 (中世思想研究 54・中世哲学会) 12.9
土橋 茂樹, Andrew Radde-Gallwitz, *Basil of Caesarea, Gregory of Nyssa, and the Transformation of Divine Simplicity*. Oxford University Press, 2009 (中世思想研究 55・中世哲学会) 13.9
久松 英二, 秋山 学 [著] 『ハンガリーのギリシア・カトリック教会——伝承と展望』創文社, 2010 (宗教研究 378・日本宗教学会) 11.12
久松 英二, P・ブラウン [著] 戸田 聡 [訳] 『貧者を愛する者——古代末期におけるキリスト教的慈善の誕生』慶應義塾大学出版会, 2012 (キリスト教史学 67・キリスト教史学会) 13.7
矢内 義顕, Morimichi Watanabe, *Nicholas of Cusa — A Companion to his Life and his Times*. Ashgate, 2011 (中世思想研究 55・中世哲学会) 13.9